

感染性胃腸炎の疫学パラメータ

- 病原体：多くの細菌、ウイルス、寄生虫が本疾患の起因病原体となりうる。細菌性では腸炎ビブリオ、病原性大腸菌、サルモネラ、カンピロバクタなど、ウイルス性ではSRSV、ロタウイルス、腸管アデノウイルスなどがみられる。寄生虫ではクリプトスポリジウム、アメーバ、ランブル鞭毛虫など。
- 感染様式：感染患者からの糞口感染、汚染された水・食品からの経口感染
- 臨床症状：原因となる病原体、感染様式、感染菌量、宿主の状態により異なる。発熱、下痢、悪心、嘔吐、腹痛などが見られる。当初発熱が先行し、嘔吐、下痢など腹部症状が遅れて出現することもある。多種多様な病原体によりおこるため、また、食中毒、外科的疾患、炎症性腸疾患などを鑑別するためにも、症状、所見、経過、便性状、腸管外症状、患者背景、季節性、海外渡航歴、ペットの飼育などを参考に確定診断につなげる。
- 検査所見：特異的なものはないが、一般に細菌感染症では白血球数、赤沈、CRPなどの増加が見られる。糞便の肉眼観察、顕微鏡による観察は、膿球（白血球）、カンピロバクタ、寄生虫などの確認に有用である。糞便の細菌培養、ウイルス分離、便中抗原検出などが病原体診断のために行われる。

引用：国立感染症研究所感染症情報センター 感染性胃腸炎とは
<https://www.niid.go.jp/niid/ja/kansennohanashi/383-intestinal-intro.html>

ノロウイルス（NoV）の遺伝子型

ノロウイルスには5つの遺伝子群（GI-V）が存在しているが、ヒトに感染するのはGI、II、IVである。

さらに、GIは9種類、GIIは22種類の遺伝子型に分類され、それぞれの遺伝子型は抗原性も互いに異なる。

感染症事例や食中毒事例から検出されるノロウイルスの大半はGIとGIIに属する。